

# がんばってね、おかあさん

里賢信

「おかあさん、はたらかないで。」

ぼくのおかあさんは、四年前からおとうとを生むために、しごとを休んでいました。ぼくが二年生になる四月から、また、おしごとに行くことになり、ぼくは、じどうクラブへかえることになりました。ぼくは、「じどうクラブじゃなくて、今までみたいに、いえへかえりたいな。」と思い、おかあさんに、

「おかあさん、おうちについてよ。」

と、なきながら言うのと、

「おかあさんもがんばるから、けんちゃんもいっしょにがんばろうね。」

と言って、ぎゅつとだきしめてくれました。でも、ぼくはやっぱり、「おかあさんにいえでまっついてほしいな。」という気もちでいっぱいでした。

四月になったとき、おかあさんのしごとと、ぼくのじどうクラブがはじまりました。おかあさんは、ぼくより早く早くおきて、ごはんをつくったり、いもうとやおとうとのきがえの手つだいをしたりして、とてもいそがしそうです。今までは、あさ学校へ行くとき、おかあさんが、「いってらっしゃい、気をつけてね。」

と、言ってくれていたけど、今は、おかあさんといっしょにいえを出ています。ぼくは、

「おかあさんもがんばってね。」

と言って、学校へ行きます。さいしよはさびしかったけど、

「けんちゃんもがんばって。」

と、おかあさんとハイタッチすると力がわいてきて、がんばることができました。

おかあさんがしごとからかえってくるのは、六時ぐらいなので、ぼくは一人でいえのかぎをあけて入るようになりました。はじめのころはシーンとしたいえに入るのがこわくてどきどきしたけど、なん回かすると、

「ただいま。」

と大きなこえを出しながら、いえに入れるようになりました。

ぼくは、まい日がんばっているおかあさんのために「お手つだいさくせん」を考えました。おとうとに絵本を読んだり、おふろのそうじをしたりしました。

「ありがとう。けんちゃんが手つだってくれて、とつてもたすかったよ。」

と、にこつとわらってくれました。ぼくは、そのえがおを見て、「また、お手つだいをしよう。」と思いました。

おかあさんがはたらきはじめて四か月たちました。ぼくは、じどうクラブでもだちとあそぶ時間がすきになりました。そして、四月に思っていた「おかあさん、はたらかないで。」という気もちがなくなりました。それは、しごとをがんばっているおかあさんがとつてもかっこよくて大すきになったからです。

「おかあさん。これからもおしごとがんばってね。」